

全国的に看護師不足といわれる中、山梨県立中央病院に勤務する看護職員は増えている。4

月1日時点の看護職員数は780人で、前年と比べて62人増加した。4月、看護職員を統括する看護局長に就任した赤池ひさ子副院長は「看護の質向上と働

と比べて150人以上増えている」と強調する。

果、離職者の減少につながっている」と強調する。

看護師の確保が進んだ結果、質の高い患者のケアにも好影響をもたらしている。今年4月、

要因として新卒採用の増加とともに離職率の低さがある。昨年度の正規看護師の離職者は27人で過去10年で最も低かった。近年は新卒者の離職も少なく、昨年度はわずか1人。赤池副院長は「職場環境を改善しながら人材育成に取り組んできた結

その一つが手術室を担当する看護師のオンコール（院外待機）の取りやめだ。従来では平日の夜勤帯、休日は急な手術の場合、呼び出しの可能性があったが、シフトを組んで勤務する制度に移行した。「しっかりと休める環境を整えることができた」と

ある。県立中央病院には日本看護協会が認定する認定看護師が25人在籍。他の病

医療最前線

県立中央病院から

〈199〉

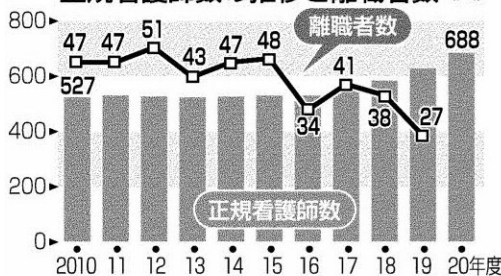
きやすい職場環境の両立を図っていく」と話す。

赤池副院長によると、同病院の看護職員は正規が688人、臨時が30人、看護補助者が62人。正規看護師は10年前の527人



赤池ひさ子副院長
・看護局長

山梨県立中央病院の
正規看護師数の推移と離職者数（人）



職場環境充実 看護職員が大幅増

患者ケアにも好影響

効果を説明する。

また、仕事の悩みや家庭の事情を理由とする離職を防ぐと、年間を通して柔軟に院内の異動を行っているという。病棟

院で行われるさまざまな研修に講師役として派遣していて、その指導力を県内全体の看護の質を高めるためにも役立てている。

など各部署を管理する看護師長は若手を中心に相談を受ける機会も多いだけに「看護の知識や技術だけでなく、内省力などの豊かな人間性が必要とされる」。月1回ほどのペースで院内で研修を行い、管理能力の向上を図っている。

赤池副院長は「県民に注目され、期待されている病院だけに看護師の人材育成は重要だと捉えている。やりがいを持って生き生きと働き続けられるようにこれからも支援していく」と話している。